


あいさつ



新潟教区教務所長
梶原教朗

新潟教区における門徒推進委員の皆様には、お念仏を喜びそしてその輪を広めていただく活動、並びに新潟別院護持のためにご尽力をいただいておりますこと大変有り難く感じております。

私も四月より新潟教区教務所長・新潟別院輪番の拝命を受け、別院本堂での毎朝七時からの晨朝（正信偈・和讃・御文章）。教務所事務開始で九時から仏間でのお勤め（重誓偈・生活信条）をさせていただいております。同じことの繰り返しと思えばそれまでですが、本堂の晨朝で、親鸞聖人のお言葉として正信偈・和讃をお勤めし、蓮



新潟の門徒推進員

発行
浄土真宗本願寺派
新潟教区門徒推進員連絡
協議会

第10号
H25年3月1日発行

如上人のお言葉として御文章を聞かせていただいていると思うとき、そして事務開始時での生活信条は、まさに今生活をする私が浄土真宗のお念仏の教えの中で今日一日どう過ごすのか、また今ある自分がどうあるべきかについて気づかされています。

浄土真宗では修行というのではありませんが、尊前（阿弥陀如来の前）におけるしつかりとした行儀作法があります。それが勤式作法です。尊前を蠟燭・華・香で荘厳し、お勤めをします。そして浄土真宗は聴聞に極まるとも言われます、それは私自身が声に出してお勤めをするとき、その声は阿弥陀様の言葉であり、親鸞聖人・蓮如上人の言葉として、私の声を私が聞かせていただくものです。

浄土真宗の生活信条には、お念仏を喜ぶ私の生活が示されています。これを子供たち（幼稚園児・保育園児）にわかりやすくした「おやくそく」というのがあります『私

たちはみ仏さまを拝みます・私たちはいつもありがとうと言います・私たちはお話をよく聞きます・私たちはみんな仲良くいたします』というものです。よくよく聞かせていただくとはんと有難いことです。
本堂の尊前で合掌しお念仏を称え、自分を静かに振り返るとき、今この一日を大切にしなければならぬこと、多くの方々のおかげで生かされ、そして生きていくことに気づかされます。本当に有り難いことです。

合掌



御同朋の社会をめざす運動



与板組 雲外寺
丸山正義（釋正義）
中央教修一八七回

昨年まで、基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）として進められてきました宗門の運動が、今年より新たに「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）とし、総合テーマ『そつとつながる、ホッがつたわるく結ぶ絆から、広がるご縁へ』と変わりました。私としては何ら変わらせず、名称だけが変わったことと思います。共に念仏の教えを聞き、いきずる人々として、差別を無くし、「すべての衆生は同じいのちにつらなる父母、兄弟である」を念頭に、門徒推進員として進んで行きたいと思えます。

各人の第一の運動として、中央教修にてご尊前に決意表明されました事が、大事だと思います。各ご寺院、組、教区へと輪を広げていただいで、仲間を増やして行きたいですね。これはご住職さん朋「道俗時衆共同心」、分け隔てなく、同心で進めなければいけないと思えます。

私の属す与板組門推協での活動を紹介し、一つには、連研にお手伝い出来る人は出席し、履修者と顔を合わせる事で、隔

たりをなくして行きます。二つには、与板組門推協会報を年二回発行しております。組門信徒皆様全部に配布出来るよう三千部ほど刷ります。この配布には組内寺院のご住職さんの理解と、協力が大きな力となっております。また、編集にも多大な指導がおります。また、編集にも多大な指導がおります。今後の活動として考えている事は、今まで連研を受けられた修了者、履修者の方々に中央教修に行っていただけのように、アプローチを行っていかうと思えます。与板組の紹介をしましたが、忘れてはいけない事は、総合テーマ「結ぶ絆から、広がるご縁へ」を思うに、平成二十三年三月十一日の東日本大震災で今だ多くの被災者が苦しんでおられます。復興には長い時間が必要です。我々には今何が出来るか、どの様に寄る事が出来るのでしょうか。出来る事から進めて行きましょう。

御同朋

私は今幸せです



与板組 隆泉寺
八子 昇（釋昇道）
中央教修一七六回

幸せでいたい。豊かになりたい。誰も

が欲しく、手に入れたいものです。実はもうそれは私たちの手の中にあります。誰かと比較して「幸せ」なのか？「豊」なのか？と思つて生きている間は、幸福感が無いが、長続きしないものです。他人と比べて不幸だなど見える人。しかし、その人は不幸なのでしょうか。

よく例えて、コップに水が半分あり、それを「まだ半分もある」と考えるのか、「もう半分しかない」と考えるのかという問いがあります。プラス思考かマイナス思考か選ぶのは他人ではなく、自分自身なのです。自分の中にプラス思考の尺度を持ち、どんな時も「幸せ」を感じる心を持つ事が大切だと思えます。

でも、落ち込む事もあるでしょう。孤独感を持つ時もあるでしょう。そんな時いつも「誰か」が側にいてくれると感じる事ができたら、素晴らしい「力」となって元気を導き出してくれるのではないのでしょうか。

それは、常に変化する人間では無く、「阿弥陀様」だとしたらどうでしょうか。心の中にしっかりと息づかせる。自分一人では怖い事、悲しい事、寂しい事など人生の中にはいっぱいあるでしょう。でも、しっかりと見ていく存在があると思える事は本当に幸せな事です。

幸せだと思ふ人生を歩むのか、不幸と思ふ人生を歩むのか。阿弥陀様とともに歩む毎日。私は今、幸せです。

私の孫



長岡組 善行寺
荒井達朗(釋教行)
中央教修一五四回

私は、今体調をくずして門徒推進員の役に立っていません。平成二十三年六月から今年秋いっぱい推進員の仕事が出来なく申し訳なく思います。そこで小さな事ですが、我家の事について書かせてもらいます。

私の家族は、私と妻、息子夫婦に孫三人の七人家族です。朝仏壇に御仏飯上げ、お参りをする事が、今日の我家の習慣にしております。今七歳と五歳の女の子、三歳の男の子の三人の孫も、毎朝欠かさずにお参りをする姿を見るに、微笑ましく嬉しく思います。

私がお参りした後には仏壇に向かって「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」と言っている姿は嬉しくなります。推進員の役にたない今、せめて我家の今の成り行きを守って、私の心の支えにしたいと思います。

又、今年の治療が終れば、元気で来年を迎えて自分の為、お寺様の為に役立ちたいと思っております。人生を欲張らないで余生を過す事が出来たら良いと思えます。

南無阿弥陀仏

合掌

ご縁をいただいて



元上組 明鏡寺
今井節子(釋貞誓)
中央教修一一二回

平成八年に門徒推進員のご縁を頂きました。あの時の感動は私の生涯に二度と有り得ないものでした。以来、私には何が出来るかと考えた時、幸い主人の出掛けられるところに許す限り同行させてもらってのお聴聞でした。そして、阿弥陀様のおはたらきと気付かせて頂いた時には、言葉に言い表せぬ程有難さでいっぱいでした。また、お先輩方に誘われて、お寺・組・教区と微力ながらお手伝いをさせて頂き、多くの皆様に逢って学ばせて頂き、感謝です。

また、教区のビハーラ活動で組の坊守様方が取り組まれていられ、私も仲間に入れてもらい、グリーンヒル与板で入浴や食事の介助をさせて頂きながら、いのちの尊さを身にしました。毎年十二月に行われているお取越報恩講に、寄せてもらっています。

現在は近くの老人施設で、毎月第一月曜日に入居者さんに寄り添いながら、歌を唄ったりお話をしたり、コミュニケーションがとれた時には満たされた私の生甲斐にもな

ります。

また、一昨年前から坊守様の発想で組の法中講に参加させて頂き、越後の七不思議のお語りや、柴田トヨさんの詩をとまどいながら六名で朗読させて頂いたりしています。昨年九月に第一連区のビハーラ研修がニューオータニ長岡で開催され、人生のターミナルケアを学ばせて頂きました。

これからも、出逢いを大切にしていきたいと思っております。

合掌

門徒推進員として



元上組 正林寺
白井一二(釋心解)
中央教修一四〇回

このたび、教区門推協の会報に寄稿させて頂く機会を与えられありがとうございます。門徒推進員として仲間入りさせて頂いてから十二年が過ぎましたが、中央教修において誓った「聴聞に励み仲間と共に基幹運動の推進に努めたい」の願いは、果して実現出来ているのだろうか。長い道のりに向かって牛歩の歩みを繰り返している私ですが、その幾つかを紹介します。

門徒推進員

幸いにして五期十年に渡り組連研の実行委員・長としてかわらせて頂き、一人でも多くの参加者と門徒推進員の誕生を願って来ましたが、近年は参加者の減少傾向と門徒推進員の誕生しない年が始め、声掛けだけではダメだと痛感させられるこの頃です。

連研の運営には、組内寺院・僧侶の指導と協力を頂きながら行っていますが、反省点も多くその一つは私自身のマンネリだろうか。気になることもあります。組内各寺院の連研(門徒推進員)に対する取り組みに差があるのではなかるうか。全寺院から連研に参加者があるためには、まだまだ僧侶の熱意と後押しを特にお願いしなければならぬ私です。

私が聴聞を重ね同朋をお誘いするものに、元上組独自の会があります。歴代組長さんや先輩推進員の働きにより幾つかの聞法の間があるが、その一つが「み教えに学ぶ会」です。「浄土真宗のみ教えを学び自分自身の人生の指針とする」ことに学びを求めこの会は、聴聞と共に僧侶と語り合いながらその意を掘り下げ学ぼうとするもので、「正信偈・ご文章の学習会」「歎異抄」「親鸞聖人伝」などを取り上げ、担当講師の解り易い解説が好評です。多くの同朋の参加を指しております。



三条組 光照寺
小澤悦郎(釋悦樂)
中央教修一六四回

「私は 強く 正しく 明るく 生き抜きます」

右記は、去る平成十七年一月二十三日、中央教修・決意表明式での不肖の決意でございます。「決意」は何にでも通じるものと意図いたしました。

同期には、三条組から自己を含む五名の同志がおり、また、一六四回同期会を翌年から毎年開催いたし、第八回目は再度三条組がつとめ、佐渡にて開催の手筈です。これも「絆」と言うものでしょうか？

世のなか 安穩なれ

拙宅は、代々光照寺様の世話方の一人でございます。年賀伺候はもとより、お寺からの指示があります毎に、聴聞は勿論の事、報恩講、盆参、仏教婦人会等、自分なりに「推進員」としての誇りを持ち、参加お手伝いを致しております。

「娑婆の縁尽きて、ちからなくしてをはるときに、かの土へはまゐるべきなり」

『歎異抄』 合掌

いち門徒として



三条組、光照寺
田中 勉(釋教勉)
中央教修一六四回

突然ですが、昨年十一月に三條市栄地区民生児童委員一同・研修で塩谷崎海岸に行ってきました。場所は太平洋に面し、福島原発と東海第二原発の中間にあります。北茨城は風光明媚な観光地美空ひばりの碑、「塩谷崎灯台」のある場所です。



中学校があります、その校庭には、近辺の瓦礫が積み上げられ、異様な光景です。



御門徒のみなさん、写真では見えませんが、実際には報道でも限界があります。ぜひ一度、現地を、東日本の惨状を自分の目で見

る必要があると思いましたが。積まれた瓦礫は、未だ分別もされず、いわゆる放射能の数値も公開されていないとの事です。即ち、手つかずの状況が続き、復興が進んでいません。

おそらく亡くなった方もあるでしょうか。海は碧く、空は澄み一面被災野があるのみ崖は崩れ灯台は傾き、いつか必ず復興する。信じます。祈ります。



最近、新幹線のなかの読み物で知ったのですが、この北茨城からいわき周辺は、太平洋プレートが日本に沈み込む最大の場所で、大昔から地盤変動の激しい場所、海底と陸地を繰り返してきたそうです。各種海中生物の化石、常磐炭鉱の石炭もそうした事情から、また、袋田の滝もそのような変動から発生したそうです。

人は賢そうでいて、不思議な生き物ですね、最初の写真を見てください。そんな大きな変動が予め判っているこの地域には、女川から東海まで四か所の大規模な原発施設が点在しています。
 ・・こわいのは原子力発電や、津波では無く、人間そのものですねー

南無阿弥陀仏

合掌

気付かせて頂く



地藏堂組 浄専寺
 伊藤スミ(釋悉照)
 中央教修一六一回

私が連研に参加させて頂いて、僧侶と門信徒が共に課題を共有して話し合い、今何が出来るか、寺離れにならないように私達はどうすれば良いのか、寺の活性化のため一人では何も出来ません。先ず一歩出てみることから始めることだと思いました。

研修会に参加したり、法話を聴聞しているうちに多くの人とのお会いとご縁を頂き、自分を見直すことが出来ました。
 連研のご講師様は、阿弥陀様、寺院、宗門、現代社会に於ける問題等を一生懸命に解り易く、時には難しく教導して頂きありがたいことです。

何も知らずに過ごしているうちに、実は阿弥陀様の知恵とご慈悲の中に包まれて、お育て頂いていた事に気付かさせて頂いてもらいありがたく念仏申しています。今、良し悪しの物差し、自己中心性であったおろかな私に気付く事が出来反省しています。

先日門推の方から「唯々聞法」の本を頂き拝読させて頂きました。その本には寺院、僧侶、門信徒の方々地域ぐるみで寺の活

性を共有し、親しみと信頼の中に互いに尊敬しあってお育て頂いている姿に感動しました。

本にはご住職様のご法話集が載っていて家に居ながらしてお法りを聴聞する場を与えて頂き感謝申しあげます。時折、一座を再度読ませて頂き、今をどのように生きるか、私に何か出来る事はないかと思、連研にお誘いして下さるが、修了してもう一歩浄土真宗を理解し伝導しあえる仲間に出会えませんが、私の力不足でお法を共有する人に出会えませんが、私はお念仏と共に生かされ、生きている事に報恩感謝し念仏申しています。

合掌

連研仲間は財産です



新潟組 誓岸寺
 宗村量子(釋称光)
 中央教修一三五回

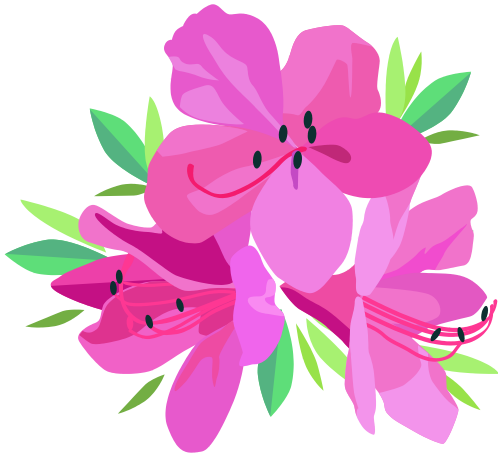
三歳の孫娘がやって来た。仏壇に向かい「ナムナム・・・チーン」と言って、たつぷりのお香でお参りするのです。いつもの光景です。

彼女の生まれる前に祖父は亡くなったの

で、顔は知らない。でも仏壇と写真の前にいつも「ナムナムのおじいちゃん」と言っていて小さな手を合わせるのです。そして、彼女のおやつを供えてくれるのです。いつまでも、その気持ちを持ち続けて欲しいと願っています。

それを見る度に、私はいつも元氣とやる気をもたらしてくれるのです。そして、連研、中央教修、門徒推進員で出会った仲間は一生涯の財産です。県内はもちろんですが、佐賀教区、滋賀教区の人達との近況報告交換も続いています。多くの出会い、感動は忘れることが出来ません。このご縁を大切に、いつまでも交流を深めたいと思っています。そして、明日に向かって強く生きる力を与えてもらっていることにも感謝です。

お念仏を頂く身を喜び、これからもご寺院に私の出来ることからお手伝いしたいと思えます。



感謝



新潟組 信生寺
長場昭一(釋弘宣)
中央教修一三五回

前年度、門徒推進員連絡協議会当番役員を務め終えて、ホッとしている新潟組です。始めに、全会員二二〇余名にご協力頂きお世話様になり、お陰様で無事責務を果たせたことへの感謝を申しあげます。ありがとうございました。

思い起せば一つ一つ書かねばならないでしょうが、紙面上限られており失礼させてもらいます。役員を経験して良かった事は、一、会員とお話出来、馴染みになれた事
一、僧侶(講師)様の聴聞出来た事
一、新潟別院のお手伝いが出来た事の幸せ
一、阿弥陀仏様のお傍に居られる安心感
一、親近感、御同朋、御同行、教え真なり
次に新潟組の活動状況報告です。三年間、連続研修は色々な事情で休みましたが、各寺院内でそれぞれ活躍しています。
連研修了者(研了会)約五十名
本山研修者(門徒推進員)内二十名
は仏教婦人部と僧侶様方役員と合同で研修旅行を年一回行っています。これまでに、
*親鸞聖人 七不思議巡り

* 恵信尼公廟所、ゑしんの里、恵信尼会館
* 無為信寺(阿賀野市・旧水原)

(親鸞お弟子二十四輩の一人)

* 浄興寺(上越市)

* 国府別院(上越市)

* 人形芝居(新作恵信尼様)

他に講演(法話)会等行っております。連続研修会の再開が待たれるところで、今年こそ実現することと思えます。

以前の門徒推進員要綱の「親鸞聖人のみ教えに信順し、如来の本願大地とし、その教法に生きるものの、誇りと喜びの名のりが門徒であります」の気持ちを持って、門徒推進員を続けてまいります。

合掌

門徒推進員活動とのご縁



巻組 教願寺
小林サト子(釋信楽)
中央教修一九七回

中央教修に参加して早いもので三年が経ちましたこの研修の四日間の思い出が、今蘇ってきます。

他教区の人達と和やかな雰囲気の中で、あさの晨朝参拝から始まり、問題提起を抱いて活発な意見交換が行われた事が思い込まれます。

三日目の決意表明式では、阿弥陀如来様の深い慈悲の心に触れ、神秘的な所で心安らかに「ビハーラ活動に参加すること」を決意致しました。特別養護老人ホームで月一回の僧侶のお勤め、法話をお聞きし、改めて有り難く心安らぐ思いでした。

その後、入所者の皆さんとレクリエーションを行い触れ合いを深め、次第に優しいお顔になっていくのを感じました。

それから一年が過ぎた頃、私の身体に異変を感じるようになりました。腰痛、膝痛、そして脳動脈瘤が見つかったのです。「生老病死」私の背に押し掛かってきました。何も手につかず、混迷を克服する、手がかりを求めて本山参拝の一人旅に出掛けることにしました。

東山文化に触れ、鹿ヶ谷の地を訪ね、哲学の道、親鸞聖人の植髪堂、青蓮院、安楽寺、法然院そして銀閣寺等々。時にはお経や法話を聞き、そんな思いの内、ふと太宰治の「ヴィヨンの妻」を思い出し、「生きてさえすれば良いのだ」と、生かされている事の大切さを痛感し、そしてお念仏申すことで苦しみを乗り越えられるものと思いました。

これからは、門徒推進員としてご縁にふ

れ、又、人々との出会いを大切に係っていきたくと願っております。

私の門徒推進員活動



巻組 長光寺
梨本昭二(釋願要)
中央教修一九五回

平成二十一年三月に第一九五回門徒推進員中央教修を修了し、門徒推進員になって早四年が経過いたしました。昨年は五十年に一度勤修される親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に、家内と共に参加をさせていただきました。

私たち夫婦にとりましては、次回の八百回大遠忌にはとうてい参加は無理ですので、今回の尊いご勝縁をいただきましたことは、誠にありがたく感謝しております。

中央教修で、阿弥陀様の尊前にて「門徒推進員として、お寺のボランティア活動に積極的に参加し、仲間を増やします。」とお誓いいたしました。この四年間、当寺院の本堂・お庫裡の掃除、ガラス磨き、庭木の剪定、草取り、それに「一人でも多くの人にお寺に来ていただく」ために、定期的に

開催されるお参り・法座に参加されるお年寄りの送迎ボランティア等、ご住職のお手伝いをしてきました。

三年前からは、お経会にも参加させてもらい、月に一回・第二木曜にお寺に集まり住職からお経・法座などご指導をいただいています。十二月には法友の親睦を図るため忘年会を開催しております。

また、法友の家族が死亡したときは、お通夜に寄せていただきご住職と共に正信念仏偈をみなさんと唱えさせていただけたいと思います。「おらがお寺」を次世代につなげるために、仲間のみなさまと力をあわせて行きたいと思えます。

教区門徒推進員による
新潟別院冬囲い作業です



門徒推進員規程

(趣旨)

第1条 「御同朋の社会をめざす運動」の実践に関する宗則(平成24年宗則第14号)に基づく宗門の「御同朋の社会をめざす運動」(以下「実践運動」という。)を、門徒の立場から強力に推進する門徒推進員について必要な事項は、この宗則の定めるところによる。

(門徒推進員の定義)

第2条 門徒で、所定の研修を経、教区、組及び寺院との密接な連絡提携のもと、一般社会や日常生活に根差した実践運動を推進する者を、門徒推進員という。

(門徒推進員の委嘱及び登録)

第3条 門徒推進員は、門徒推進員養成連続研修会(以下「連研」という。)を経、門徒推進員中央教修を受講した門徒について、所属寺院の存する教区の教務所長が委嘱し、宗務所備付の門徒推進員名簿に登録されるものとする。

(門徒の連研受講)

第4条 門徒は、積極的に地域の実践運動に参画するとともに、総局及び地方宗機並びに所属寺院の協力を得て、連研を受講し、門徒推進員として登録されるよう努めるものとする。

(宗務機関及び寺院の責務)

第5条 総局は、積極的に門徒推進員を養成し、その活動を支援するため、必要な措置を講じなければならない。

2 地方宗務機関及び寺院は、すべての門徒が連研を受講し、門徒推進として活動する機会を共有できるよう、その体制及び環境の整備に努めなければならない。

(宗達の委員)

第6条 この宗則施行するために必要な事項は宗達で定める。

附 則

1. この宗則は、平成24年4月1日から施行する。
2. この宗則施行の際現に廃止される基幹運動推進委員会設置規程(平成14年宗則第14条)第7章の規定による門徒推進員は、この宗則による門徒推進員とみなす。

|| 編集後記 ||
 ウツ寒く、この冬一番の冷え込みと積雪です。
 阿弥陀様か阿弥陀如来か、教務所長さんの説明を待つという事から編集開始です。門徒推進員になられてからの時が流れ、教区門徒推進員の方々から「今」を寄稿していただきました。思いは皆それぞれ、大切にしている言葉、活動、仲間。紙面いっぱい散りばめられています。じっくりと味わいながら御一読下さい。梅が咲き、作付けの準備もそろそろの頃お届けします。

巻組 長光寺 梨本重雄(釋重願)

教区門推協編集委員です!

